

科 目	自然科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	小岩 信義	教員区分	一般教員

教科書	特に指定なし
参考書	「かがやく生き方 心身健康科学 第3版」(人間総合科学大学刊/紀伊国屋書店発売) 「心身一如の科学」 (人間総合科学大学刊)
成績評価	定期試験にて評価する
留意事項	講義では、講義内容に関するプリントを配布する。板書に基づいて、講義ノートをつけるとともにプリントを整理して保管し、学習に役立てること。

科目の目標	人間のこころと身体の相互作用(心身一如/心身相関)を支える法則と、科学的な仕組みを理解し、「よりよく生きる」ための科学的な知恵を考える。
授業概要	鍼灸臨床にも必要となる心身一如・心身相関に関する科学的理解と、この知見を生活の中でどのように活かすのか、その工夫について学修する。

日程

回 数	授業内容
1	心身相関の科学の特徴と社会背景
2	生きることと心身相関の科学①(生活と神経神話)
3	生きることと心身相関の科学②(科学リテラシー)
4	感覚・運動と心身相関①(神経組織、ミエリンサイクル、機能局在)
5	感覚・運動と心身相関②(機能局在ドグマ、連合野、感覚と知覚の違い)
6	視覚経路、網膜の構造、視床(情報の集配センター)と視床下部
7	情動反応と扁桃体、視覚意識と視覚反応 扁桃体
8	シナプスの可塑性、プルーニング現象
9	視覚情報の処理、注意、錯覚(change blindness、マガー効果など)
10	意識と無意識、随意的運動と不随運動の区別の限界(錐体路、錐体外路)、運動準備電位
11	小脳の構造と機能、エラー検出器、内部モデル、LTPとLDP、運動学習
12	体性感覚の伝導路、ホムンクルス、皮質の可塑的变化、痛覚一般
13	収束投射説、関連痛、下降性疼痛抑制系
14	身体図式と心身相関(感覚の統合、深部感覚、自己意識と「からだ」)
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	身体と科学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	橋本 侑也	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	「勝ちにいくスポーツ心理学」高畑好秀 著（山海堂）
成績評価	定期試験で評価
留意事項	特になし

科目の目標	人体の生理メカニズムの理解、スポーツ科学やトレーニングについて学ぶ。
授業概要	身体のメカニズムを知り、スポーツを行う時の身体の動き・しくみ、様々な環境下における生理応答のメカニズムとその機能を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	授業ガイダンス
2	機能解剖 骨について 1
3	機能解剖 骨について 2
4	機能解剖 骨について 3
5	機能解剖 筋について 1
6	機能解剖 筋について 2
7	機能解剖 筋について 3
8	レジスタンストレーニング 1
9	レジスタンストレーニング 2
1 0	スポーツバイオメカニクス
1 1	イメージトレーニング
1 2	メンタルトレーニング
1 3	スポーツ心理学
1 4	まとめ
1 5	定期試験
1 6	解答と解説、授業総括

科 目	人文科学（医用英語）	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	金井 泉寿	教員区分	一般教員

教科書	「配付資料」（授業時に配布）
参考書	「鍼灸師・柔道整復師のための医学英語」 中村清他著 （医道の日本社） 「医療スタッフのための英会話」 東京大学附属病院（ベレ出版）
成績評価	随時実施する小テスト(30%)及び定期試験(70%)の総合評価とする。総合評価ないしは定期試験が60点未満の場合は再試験の対象となる。
留意事項	1. 身体各部の名称や簡単な医用英語の確実な修得を目指す。 2. 実用英語を重視しロールプレイなどを通して意思疎通を実践的に演練する。

科目の目標	英語の基礎的事項を確実に理解するために文法、ボキャブラリー、スピーキング、リスニング能力の向上を図り、配布資料及び参考書に基づき、医療現場における英語によるコミュニケーションの基礎を確立する。
授業概要	1. グラマー：品詞、文型を理解しその運用能力を向上する。 2. ボキャブラリー：学習要領を説明し、特に医学分野の語彙を重視し修得する。 3. スピーキング：少ない語彙を自分なりに工夫をし、意思を伝えることを学習する。 4. リスニング：国籍により発音が多様であることを理解し意思疎通を演練する。

日程

回 数	授業内容	
1	素養試験	世界で話される英語
2	グラマー1：品詞	医用英語：身体各部の名称1
3	グラマー2：文型	医用英語：身体各部の名称2
4	ボキャブラリー1：語彙の成り立ち	医用英語：筋肉の名称1
5	ボキャブラリー2：語彙の増やし方	医用英語：筋肉の名称2
6	スピーキング1：発音の基礎	医用英語：骨格の名称1
7	スピーキング2：日本人特有の発音	医用英語：骨格の名称2
8	リスニング1：音の識別	医用英語：関節運動1
9	リスニング2：国による多様な発音	医用英語：関節運動2
10	会話1：挨拶、受付	医用英語：傷病名、症状
11	会話2：診察、問診	医用英語：問診表
12	会話3：施術	医用英語：薬、服用
13	会話4：会計、その他	医用英語：医療施設・用具
14	総合練習	
15	定期試験	
16	定期試験解答と解説、総合復習	

科 目	人間学Ⅰ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
教 員 名	内藤 潔	実施学期	前期

教科書	指定なし（1週間前にレジュメを配布し、当日にパワーポイントで講義する）
参 考 書	毎回のレジュメで紹介するが、主なるものは以下です。 『交換の社会学』橋本茂著（世界思想社） 『贈与論』マルセル・モース著（ちくま学芸文庫） 『功利主義入門：はじめての倫理学』児玉聡著（ちくま新書） 『ファッションの技法』山田登世子著（講談社現代新書） 『ファッションの文化社会学』ジョアン・フィッセル著・成実弘至訳（せりか書房） 『自発的隷従論』エティエンヌ・ド・ラ・ボエシ著/西谷修監修・訳（ちくま学芸文庫） 『監獄の誕生』ミッシェル・フーコー著/田村俣訳（新潮社） 『自由からの逃走』エーリッヒ・フロム著/日高六郎訳（東京創元社） 『行動経済学』友野典男著（光文社新書） 『信頼の構造』山岸俊男著（東京大学出版会） 『ファスト&スロー』ダニエル・カーネマン著（ハヤカワ文庫） 『「新しい働き方」の経済学』井上義郎著（現代書館） 『フリーライダーあなたの隣のただの社員』河合太介・渡部幹著（講談社現代新書）
成績評価	中間レポート30%、定期試験70%で評価。定期試験が60点未満の者は再試験となる。
留意事項	定期試験は記述式の小論文です。初回授業からそれを意識して聴講してください。

科目の目標	まず、職業人として今後必要となる「社会と人間のリアルな関係性」を理解することを目指します。そのため基本的な人間の社会的行動における原理を学びます。次いで、その理解を基に、自分なりに現実社会へ「定位」できる（自分の居場所を得られる）、そうした「社会的な技術」の把握を目指します。
授業概要	授業内容で暗記するようなことは、ほとんどありません。何よりも自分で考えることが中心となる課題となります。授業では、身近に起こっている社会的な事象をたくさん紹介します。社会的な関係が成立しているところには、必ず交換関係が存在するという観点に立ち、身近な出来事を一緒に分析します。そして、そこで交換される「交換財」や「交換形式」を学びながら、自分なりの行動原理を考えていくことになります。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス（学問とは幸福論であるという理解）と授業のイントロダクション
2	●人間の基本的な行動原理（進化心理学と交換論の成果を紹介します） ① 感情と理性 ② 集団でしか生き残れなかった人類 ③ 5つの一般命題（人間行動の基本的な説明原理）
3	●社会行動は「財」の交換 ① 交換という関係性（交換論の立場の解説） ② 互酬性（贈与と返礼の関係性） ③ 功利主義（快楽と苦痛が人間を動かす根本原理）

4	●権力と権威の在りどころ ① 勢力と権力 ② 利害関心最少の原理（惚れた弱み） ③ 「中央化」とは（偉そうな人間の存在構造）
5	●挨拶はなぜ必要か？ ① 規範と集団（同調には報酬、逸脱には罰を） ② 空間浸食（縄張り争い） ③ マナー、作法（安全保障に向けた同質性の証明）
6	●ファッションの意味 ① 逸脱には罰を（所属集団の明示と期待に対する応答性、時流との整合性） ② 同一性と差異性（異なる願望の同時達成） ③ 印象の資源化（交換関係における価値の操作）
7	●アメとムチ（他者統制の方法） ① 罰による統制 ② 本姓としての自由（自由剥奪の様々な方法を罰という） ③ 人間本姓としての隷従願望（誰かに従っていないと不安）
8	●人と人の結びつき（紐帯）の原理的傾向 ① バランス理論（態度を変えるときの説明原理） ② 関係の多面化（離れられない関係になる理由）
9	●どちらが損か得か（合理性命題） ① 経済学と「経済人」（ホモ・エコノミクスという社会的な人間類型） ② 功利主義（快楽の増大と苦痛の減少＝道徳の基礎） ③ 合理性命題（損得勘定の原理）
10	●いつでも都合の良い他人（捨象の産物） ① 認識と思考のメカニズム（知覚→認識→思考） ② 具体から抽象へ（「余分」を切り取った認識パターン） ③ ユーザーの捨象（権力的な関係が生まれる構造）
11	●もめごとの本質（他人の空間的な侵犯） ① 行為の越境 ② 権利の両属空間（どちらにも権利がある） ③ 調停の限界（法では解決できないこと）
12	●安全・安心／ファスト思考とスロー思考 ① 安心ということ ② 信頼の構造（「一般的信頼」が大切） ③ 一般的信頼を高める方法 ④ 早い思考と遅い思考（私たちの脳は怠け者：認知容易性の落とし穴）
13	●何を基準に仕事を選ぶのか？ 給料をもらうとは？ ① 認知容易性（楽そうなことをすぐ選ぶ） ② 「比較優位」の原理（得意なことを仕事にする） ③ 実際の職業生活における「交換」
14	●「公」への無関心 ① フリーライダー問題（ただ乗り） ② 割れ窓理論（放置の問題性） ③ 権利・責務意識の変化（権利主張の風潮） ④ 行為と距離（物理的距離と心理的距離）
15	定期試験
16	まとめ

科 目	解剖学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	32
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	小笠原 京哉	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	適宜紹介
成績評価	2回目以降に授業内で行う小テストの成績を4割, 期末試験の成績を6割の総合評価とする。 ただし, 期末試験で60点未満または総合評価60点未満の者は再試験とする。
留意事項	3年間の勉強の基礎となる科目のため, しっかりと復習をしましょう。

科目の目標	人間の体のつくり(構造)を学び, 人体に興味を持つ。
授業概要	全身の骨の名称の正しい名前・位置を覚える。 全身の関節の構成と形状を覚える。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・運動器系総論
2	上肢帯の骨
3	上肢の骨
4	手・足の骨
5	下肢の骨
6	脊柱の骨
7	胸郭・骨盤の骨
8	頭蓋骨①
9	頭蓋骨②
10	骨の総論
11	関節の総論
12	上肢の関節
13	下肢の関節
14	脊柱の関節
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	解剖学Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	原 島 基	教員区分	一般教員

教 科 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
参 考 書	「病気が見えるシリーズ」 (MedicMedia 社)		
	「のほほん解剖生理学」	大和田 潔 監修	(永岡書店)
	「解剖トレーニングノート」	竹内 修二	(医学教育出版社)
	「解剖学講義」	伊藤 隆	(南山堂)
	他に授業時に配布する資料を参考にする。		
成績評価	定期試験の結果による。		
留意事項	100%の出席を目指す。授業に集中する。授業の進行度合いにより、授業内容が前後することがある。復習を行う		

科目の目標	前期は解剖学の概説を学び、続いて循環器系と呼吸器系の構造と機能を知る。学ぶ過程では、自身の身体へ投影しつつ、反復しながら記憶を定着させることを目標とする。
授業概要	人体を構成する組織、循環器系、呼吸器系の各部位・各臓器の正確な名称を把握する。その上で、体内におけるそれらの位置関係（立体構造）と役割を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	第1章人体の構成 1：総論・細胞
2	第1章人体の構成 2：組織①
3	第1章人体の構成 3：組織②
4	第1章人体の構成 4：体表解剖
5	第2章循環器系 1：血管系
6	第2章循環器系 2：心臓
7	第2章循環器系 3：脈管①
8	第2章循環器系 4：脈管②
9	第2章循環器系 5：脈管③
10	復習①：確認問題と解答・解説
11	第2章循環器系 6：胎児循環 リンパ系
12	第3章呼吸器系 1：呼吸器系 鼻腔と副鼻腔
13	第3章呼吸器系 2：咽頭と喉頭 3：気管と気管支 4：肺
14	復習②：確認問題と解答・解説
15	定期試験
16	定期試験解説

科 目	生理学Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「標準生理学」 本間研一 監修(医学書院) 「人体の正常構造と機能」 坂井建雄ら 編集(日本医事新報社) 「生理学インパクト」 原田晃 著(医道の日本社)
成績評価	定期試験による
留意事項	病理学や臨床医学各論の基礎となる科目のため理解することに重きをおく。

科目の目標	生体の正常な機能を理解することで、他の基礎分野・専門基礎分野・専門分野を学ぶ上での基礎を養い、はり師・きゅう師に必要な生体の機能を習得する。
授業概要	本講義では、循環、生体の防御機構、呼吸について取り上げ、人体の生理を維持するメカニズムなどを学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	授業概要説明、循環1：血液の組成と働き(赤血球)
2	循環2：血液の組成と働き(白血球、血小板、血漿)
3	循環3：止血、線維素溶解
4	循環4：血液型、心臓血管系、心臓の構造
5	循環5：心臓の構造と働き(心筋の特性、刺激伝導系、心機能の調節)
6	循環6：心臓の構造と働き(心電図、神経支配) 血液循環(血管、脈拍、毛細血管の循環)
7	循環7：血液循環(静脈、神経支配、血圧)
8	循環8：循環調節(調節の仕組み、循環中枢、反射性調節、高位中枢からの影響)
9	循環9：循環調節(特殊な部位の循環)、リンパ系 生体の防御機構1：生体の防御機構(自然免疫、獲得免疫)
10	生体の防御機構2：生体の防御機構(白血球、液性因子、リンパ系器官)
11	生体の防御機構3：免疫反応の分類(液性免疫と細胞性免疫、炎症、アレルギー、)
12	呼吸1：呼吸器(外呼吸と内呼吸、構造と機能)、換気とガス交換(肺機能)
13	呼吸2：換気とガス交換(交換と運搬)、呼吸運動とその調節(吸息、呼息、胸腔内圧)
14	呼吸3：呼吸運動とその調節(呼吸中枢、反射性調節、異常)
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	生 理 学Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	根本 香代	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	特に指定しない
成績評価	小テスト、課題提出、定期試験による総合評価 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行なうこと

科目の目標	生体は生命を維持するために、内部環境の恒常性を保っている。生理学では、われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学Ⅲにおいては、生理学の基礎、内分泌、生殖、身体活動の協調、体温について学ぶ。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。随時、小テストを行い、理解の度合いを確認しながら、進める。

日程

回 数	授業内容
1	生理学の基礎①：生理機能の特徴、細胞の構造と機能
2	生理学の基礎②：物質代謝、体液の組成と働き、物質移動
3	内分泌①：ホルモンの特徴
4	内分泌②：視床下部ホルモン、下垂体ホルモン
5	内分泌③：甲状腺ホルモン
6	内分泌④：副甲状腺ホルモン、膵臓のホルモン
7	内分泌⑤：副腎のホルモン
8	内分泌⑥：性ホルモン
9	生殖①：生殖
10	生殖②：妊娠と出産、成長と老化
11	体温①：体温調節、体熱の産生と放散
12	体温②：発汗とその調節、体温調節の障害
13	身体活動の協調①：生体の適応、恒常性維持
14	身体活動の協調②：バイオリズム
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	医療倫理	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	太田 和幸	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	「社会あはき学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験による
留意事項	医療ならびに職業について、自身で考えを持って授業に参加する。

科目の目標	医療人が患者様から信頼を得るためにはどうすればよいかを考える。また、鍼灸業界のいろいろを知り、鍼灸師としてとるべき態度はいかなるものか、治療者に必要なものは何か、そして何のために鍼灸師になろうと思ったのかを考え、目的を持った学生生活を送るための課題を考えていく。
授業概要	治療者としての基本的な心構え、知識を共に考えていくとともに、目標および目的を設定していく。

日程

回 数	授業内容
1	目的および目標
2	理想の医療人（鍼灸師）とは
3	鍼灸の現場の現状
4	医療の倫理と職業倫理
5	職業としての鍼灸
6	現代の課題、諸問題
7	定期試験
8	総括および総まとめ

科 目	はりきゅう理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	椎野 崇	教員区分	一般教員

教科書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「はりきゅう実技<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
成績評価	定期試験を8割、小テストを2割として総合評価をする。 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。 教科書・プリントは指示がなくても毎回すること。 授業内容を復習すること。 進行状況により、シラバスの内容が変更される場合あり。

科目の目標	本科目は「鍼」と「灸」の基礎知識を学び、そのリスクについて理解することを目標とする。
授業概要	鍼灸臨床で用いる器具、技術、衛生的処置をきちんと理解し実践できること。 鍼灸療法の禁忌やリスク、副作用について理解し把握すること。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、概論
2	リスク管理(感染症対策)
3	鍼の基礎知識①
4	鍼の基礎知識②、刺鍼の方式と術式①
5	刺鍼の方式と術式②
6	特殊鍼法
7	灸の基礎知識
8	灸術の種類
9	鍼灸の臨床応用①
10	鍼灸の臨床応用②
11	鍼灸の臨床応用③
12	リスク管理①
13	リスク管理②
14	総合演習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	経絡経穴概論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)		
参 考 書	「ツボがある本当の意味」	栗原誠 著	(BABジャパン)
	「針灸学〔経穴編〕」	兵頭明 翻訳	(東洋学術出版社)
	「経穴主治症総覧」	池田政一 編著	(医道の日本社)
	「臨床経穴ポケットガイド」	篠原昭二 著	(医歯薬出版)
	「鍼灸経穴辞典」	天津中医薬大学 編	(東洋学術出版社)
成績評価	経穴名の暗唱1割, 小テスト2割, 定期試験7割による総合評価。 定期試験ないし総合点が60点に満たない者は再試験とする。		
留意事項	授業内で経穴名, 取穴法が覚えられるよう集中して臨むこと。 授業内だけで覚えられる量では無いので, 自宅での学習に努めること。 進行状況に応じシラバスは前後します。		

科目の目標	経絡経穴についての基礎的知識(経絡名・経穴名・取穴部位)を理解習得し, 鍼灸師としての基礎を作る。
授業概要	講義と体, イラストを使用した形式で実施する。繰り返し同じ図を用いることで印象を深めていく。授業開始時に小テストを実施し, 理解度を確認する。

日程

回 数	授業内容
1	1 章 経絡・経穴の基礎, 2 章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経①
2	2 章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経②, 手の陽明大腸経①
3	2 章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経②
4	2 章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経③
5	2 章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経①
6	2 章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経②
7	2 章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経③
8	2 章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経④
9	2 章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経①
1 0	2 章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経②
1 1	2 章 十四経脈とその経穴 手の少陰心経, 手の太陽小腸経①
1 2	2 章 十四経脈とその経穴 手の太陽小腸経②
1 3	2 章 十四経脈とその経穴 督 脈, 任 脈
1 4	まとめ
1 5	定期試験
1 6	解答・解説

科 目	東洋医学概論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	飯塚 聡	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	適宜、紹介をする
成績評価	小テスト・定期試験の結果を主に、授業へ参加する姿勢も考慮の対象とする。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。復習する習慣をつけ疑問を持ち越さないこと。

科目の目標	東洋医学についての基礎的な知識を学び、専門用語を理解する。 東洋医学的な人体の見方や病理を理解し、国家試験や臨床に応用する力をつける。
授業概要	東洋医学の歴史や哲学、人体の見方やその生理・病理を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	第1章 東洋医学の特徴：東洋医学の沿革・人体の見方・東洋医学的治療
2	第3章 東洋医学の思想：陰陽学説
3	第3章 東洋医学の特徴：五行学説
4	第2章 生理と病理：生体物質と神（生体物質）
5	第2章 生理と病理：生体物質と神（神）
6	第2章 生理と病理：生体物質と神（人体における陰陽）
7	第2章 生理と病理：蔵象学説
8	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（肝・1）
9	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（肝・2、胆）
10	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（心・1）
11	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（心・2、小腸）
12	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（脾・1）
13	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（脾・2、胃）
14	前期の復習：定期試験に向けて
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	鍼基礎実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技＜基礎編＞ 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	実技試験・授業態度・出席状況による総合評価。 実技試験が6割以下の者、もしくは総合評価が6割以下の者は再試験とする。
留意事項	実習内容について毎日反復練習に努めること。 体調をしっかりと管理し、遅刻・欠席をしないこと (欠席－4点、遅刻・早退－2点、ふさわしくない身だしなみ－2点)

科目の目標	刺鍼の基本および身体各部への安全な刺鍼法を習得する。 鍼灸師として施術に必要な衛生概念を身につける。
授業概要	刺鍼に必要な基礎知識を学習する。衛生管理 (用具・手指などの清潔保持、消毒)、医療過誤の概要を学ぶ。安全に適切な刺鍼が行えるよう基礎技術を習得する。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った刺鍼技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	鍼の基礎知識① 手指の衛生管理
2	鍼の基礎知識② 姿勢、鍼の衛生的な準備、刺手、挿管
3	押手
4	前揉法～立管①、切皮①
5	部位消毒、前揉法～立管②、切皮②、抜鍼
6	鍼の基礎知識③ 部位消毒～切皮 (各自：大腿部) ①
7	部位消毒～切皮 (各自：大腿部) ②、刺入練習 (刺鍼練習器など) ①
8	刺入練習 (刺鍼練習器など) ②、鍼尖感覚の練習
9	鍼の基礎知識④ 刺入練習 (各自：大腿部) ①
10	刺入練習 (各自：大腿部) ②

1 1	刺入練習（各自：大腿部）③
1 2	刺入練習（各自：大腿部）④
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	刺入練習（まとめ）

科 目	灸基礎実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技＜基礎編＞ 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	実技試験(70%)，課題提出(30%)，出席状況，授業態度，身だしなみによる総合評価。実技試験が6割以下の者，もしくは総合評価が6割以下の者は再試験とする。
留意事項	火の取り扱いに十分注意し，自宅でも反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみ－2点)。 体調をしっかりと管理し，遅刻・欠席・早退をしないこと(欠席－4点，遅刻・早退－2点)。

科目の目標	灸に関する基礎的な知識，技術を習得し，灸施術における動作を安全かつ正確に行える能力・態度を身に付ける。
授業概要	灸の基礎知識を学び，施灸の基礎技術を習得する。

実務経験	付属左門町鍼灸院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要と進め方，実習上の諸注意，備品の取り扱い・準備について
2	灸の基礎知識①，施灸練習(艾のひねり方，艾の立て方)①
3	灸の基礎知識②，施灸練習(艾のひねり方，艾の立て方)②
4	施灸練習(線香の使い方，リスク管理)
5	施灸練習(点火)①
6	施灸練習(点火)②
7	施灸練習(灸温度計)
8	施灸練習(紙への施灸)①
9	施灸練習(紙への施灸)②
10	施灸練習(紙への施灸)③

1 1	施灸練習（紙への施灸）④
1 2	施灸練習（紙への施灸）⑤，実技試験説明
1 3	実技試験①
1 4	実技試験②
1 5	試験のフィードバック
1 6	総復習

科 目	人間学Ⅲ (心理学・コミュニケーション)	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	滝本 祥子	教員区分	一般教員

教科書	指定なし（毎回の授業で授業プリント冊子を配布し、利用する）
参考書	適宜、授業の進行に合わせ紹介する。
成績評価	①定期試験、②グループワーク・課題による総合評価で、その割合は①：②＝80：20である。定期試験ないし総合評価が6割未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	ショートレポートの提出を求めることがある。

科目の目標	臨床心理学の基礎を学びながら、患者とのコミュニケーションスキルを身につける
授業概要	心理学の基礎を学ぶことで、自己に気づくとともに、精神的原因によっておこる主な精神神経症状を理解し、医療現場における患者理解を深める。社会的関係におけるコミュニケーションの多様性・重要性を理解し、よりよいコミュニケーションを求める態度を育成する。

日程

回 数	授業内容
1	第1部 患者心理① 心理学とその関連領域（心とからだ）
2	第1部 患者心理② 心の構造
3	第1部 患者心理③ 不安・痛みと心
4	第1部 患者心理④ ストレスと関連する障害
5	第2部 心の捉え方（心理アセスメント）① 生理心理社会学モデル
6	第2部 心の捉え方（心理アセスメント）② 性格検査
7	第2部 心の捉え方（心理アセスメント）③ 知能検査
8	第3部 カウンセリング① 対人コミュニケーション
9	第3部 カウンセリング② カウンセリングの基本的態度
10	第3部 カウンセリング③ 臨床場面のカウンセリングの応用
11	第4部 心理療法① 心理療法の概要
12	第4部 心理療法② 自立訓練法・認知行動療法
13	第4部 心理療法③ アドラー心理学
14	第4部 心理療法④ コーチング
15	定期試験
16	全体の振り返りと共有

科 目	解剖学Ⅵ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	島田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「人体の正常構造と機能」坂井建雄 著(日本医事新報社) 「全部わかる人体解剖図」坂井建雄 著(成美堂出版) 「からだの地図帳」高橋長雄 著(講談社) その他必要に応じてプリントを配布。
成績評価	定期試験で評価し、60点以上を合格とする。
留意事項	予習・復習には十分時間をかけること。 欠席しないよう注意すること。

科目の目標	人体構造についてよく理解する。
授業概要	教科書に従って行う。

日程

回 数	授業内容
1	脈管系 1
2	脈管系 2
3	脈管系 3
4	脈管系 4
5	脈管系 5
6	呼吸器系 1
7	呼吸器系 2
8	消化器系 1
9	消化器系 2
10	消化器系 3
11	泌尿器系・生殖器系 1
12	泌尿器系・生殖器系 2
13	泌尿器系・生殖器系 3
14	内分泌系
15	定期試験
16	授業総括

科 目	運動学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	塚本 晃介	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」 (公社) 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「リハビリテーション医学 第4版」 (公社) 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「基礎運動学 第6版」 中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	臨床でも大切な内容であり、また範囲が広い内容であるため、予習・復習に努めること。

科目の目標	筋・運動学・身体各部の機能について理解し、臨床に必要な運動学の知識を理解する。
授業概要	筋・運動学・身体各部の機能について重要なところを解説し、鍼灸師として応用できるよう授業する。

日程

回 数	授業内容
1	運動学ガイダンス、筋収縮の仕組み、筋のエネルギー代謝
2	心筋と平滑筋、骨格筋の神経支配
3	運動の調節1 脊髄反射
4	運動の調節2 脳が関する反射、錐体路系・錐体外路系・発声と言語
5	身体各部の機能1 (脊柱・体幹の機能)
6	身体各部の機能2 (肩甲帯・肩の機能)
7	身体各部の機能3 (肘と前腕の機能)
8	身体各部の機能4 (手と手指の機能)
9	身体各部の機能5 (骨盤と股関節の機能)
10	身体各部の機能6 (膝関節の機能)
11	身体各部の機能7 (足の機能)
12	姿勢と歩行
13	復習1
14	復習2
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	病理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教 科 書	「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「はじめの一步のイラスト病理学」深山正久 編 (羊土社) 「なるほどなっとく!病理学」 小林正伸 編 (南山堂)
成績評価	定期試験
留意事項	基本となる生理学の復習を行うこと。

科目の目標	病理の基礎を学び、臨床医学各論で学ぶ疾病の病態が、どのような機序になっているか理解する。
授業概要	教科書に沿う様な形で、重要なところをわかりやすく解説・講義する。

日程

回 数	授業内容
1	病理概論・病因 1
2	病因 2
3	循環障害 1
4	循環傷害 2
5	退行性病変 1
6	退行性病変 2、進行性病変 1
7	進行性病変 2
8	炎症 1
9	炎症 2
10	腫瘍 1
11	腫瘍 2
12	免疫異常・アレルギー 1
13	免疫異常・アレルギー 2
14	先天性異常
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学総論Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	太田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社)		
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版社)
	「生理学 第3版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版社)
	「写真で学ぶ整形外科テスト法」	ジョセフ J・シプリアーノ 著	(医道の日本社)
	「診察と手技がみえる」	田邊政裕編集	(メディックメディア)
成績評価	定期試験		
留意事項	基礎となる解剖学、生理学の復習や鍼灸臨床評価実習と併せた学習を行ってください。		

科目の目標	医療従事者として臨床に不可欠な診察法、検査法の基礎知識を身に付け、鍼灸臨床に応用できる能力を養う。またその知識を活用し患者の訴える症状から正しい鑑別診断ができることを目標とする。
授業概要	症状・所見から疾患の把握や診断に結び付けられるように、それぞれの特徴について講義する。

日程

回 数	授業内容
1	授業概要、第2章 診察の方法
2	第3章 生命徴候の診察1
3	第3章 生命徴候の診察2
4	第4章 全身の診察1
5	第4章 全身の診察2
6	第4章 全身の診察3
7	第4章 全身の診察4
8	第5章 局所の診察1
9	第5章 局所の診察2
10	第5章 局所の診察3
11	第5章 局所の診察4
12	第6章 神経系の診察1
13	第6章 神経系の診察2
14	第6章 神経系の診察3 まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	解剖学の復習を行うこと。

科目の目標	整形外科疾患の基本的な知識を習得する。
授業概要	整形外科疾患の病態を把握し、鍼灸治療の適応、不適応の鑑別診断を行えることを目標とし、実際の臨床に適応できるようにする。

日程

回 数	授業内容
1	総論、関節疾患Ⅰ
2	関節疾患Ⅱ
3	関節疾患Ⅲ
4	骨代謝性疾患・骨腫瘍
5	筋・腱疾患
6	形態異常
7	脊椎疾患Ⅰ
8	脊椎疾患Ⅱ
9	脊椎疾患Ⅲ
10	脊髄損傷
11	外傷
12	スポーツ外傷・傷害 その他の整形外科疾患
13	その他の整形外科疾患
14	総復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「病気が見える」シリーズ (メディックメディア) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験により評価
留意事項	病態理解を目標とする為、漫然と単語を暗記する作業に陥らないように注意する事。 各病態の関連性から、教科書の順序と若干異なる進捗となるので気を付けて下さい。

科目の目標	臨床医学各論の分野における、感染症、呼吸器疾患、循環器疾患、血液造血器疾患について疾患名称とその病態把握を目指す。
授業概要	配布物を中心に、各疾患についての概念、症状、診断、治療、経過予後を学習する。

日程

回 数	授業内容
1	生理学・循環器/循環器疾患①(心臓疾患①)
2	循環器疾患②(心臓疾患②)
3	循環器疾患③(冠動脈疾患、動脈疾患、血圧異常)
4	生理学・免疫系/感染症①(総論、細菌感染症①)
5	感染症②(細菌感染症②、ウイルス感染症①)
6	感染症③(ウイルス感染症②、性感染症)
7	生理学・呼吸器/呼吸器疾患①(感染性呼吸器疾患)
8	呼吸器疾患②(閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患)
9	呼吸器疾患③(その他の呼吸器疾患)
10	生理学・血液/血液・造血器疾患①(赤血球疾患①)
11	血液・造血器疾患②(赤血球疾患②)
12	血液・造血器疾患③(白血球疾患、リンパ網内系疾患)
13	血液・造血器疾患④(出血性素因)
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	経絡経穴概論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	棚田 徹也	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」東洋療法学校協会編（医道の日本社）
参考書	「新版 東洋医学概論」（公社）東洋療法学校協会編（医道の日本社） 「新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）」（公社）東洋療法学校協会編（南江堂） 「中医薬大学全国共通教材 全訳 経絡学」李鼎主編・浅野周訳（たにぐち書店 2000年） その他、授業内で随時紹介する。
成績評価	定期試験で60%に満たない場合再試験となる。
留意事項	実技等他教科においても経絡・経穴との関連を常に意識されたい。

科目の目標	経絡経穴の基礎知識を拡充し、臨床における選穴の基本を身に付ける。
授業概要	経脈の成り立ちと流注の特徴、及び各経脈病証との関係を理解し、臨床応用の基礎を身に付ける。 要穴の種類とその意味、使用法について整理し身に付ける。 病証に応じた選穴法について学ぶ。主要な経外奇穴の部位と適応を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、経絡経穴の歴史、選穴法の種類
2	循経取穴と経脈流注、経脈病証 1.
3	循経取穴と経脈流注、経脈病証 2. 要穴の概要
4	循経取穴と経脈流注、経脈病証 3. 要穴①
5	循経取穴と経脈流注、経脈病証 4. 要穴②
6	循経取穴と経脈流注、経脈病証 5. 要穴③
7	循経取穴と経脈流注、経脈病証 6. 要穴④
8	要穴の用法 交会穴
9	経験的選穴法 特効穴 経外奇穴①
10	奇経八脈の流注と病証・経穴 1. 経外奇穴②
11	奇経八脈の流注と病証・経穴 2. 経外奇穴③
12	奇経八脈の流注と病証・経穴 3.
13	八脈交会穴 病証に応じた選穴法
14	総復習
15	定期試験
16	解説・解答、補足

科 目	東洋医学臨床論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	石田 大弥	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 東洋医学臨床論くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編 (南江堂) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	プリントを配布
成績評価	定期試験
留意事項	東洋医学概論、経絡経穴の知識が必要となる授業です。

科目の目標	各愁訴・疾患における東洋医学的な病因病機を理解し、鍼灸処方を組み立てられること
授業概要	東洋医学的な病因病機・処方を座学形式で学ぶ

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション/1年生の復習(臓腑、生体物質の生理・病理)
2	1年生の復習(四診)/鍼灸臨床
3	治療穴とその応用
4	手技と手法
5	頭痛
6	顔面痛/関節痛
7	頸肩腕痛/上肢痛/肩関節痛/膝痛
8	腰下肢痛/腰痛/下肢痛
9	胸痛/腹痛
10	眼精疲労/気分障害(うつ状態)
11	めまい/動悸・息切れ
12	血圧異常/睡眠障害
13	食欲不振/肥満
14	やせ(るい瘦)/悪心・嘔吐
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	現代医学臨床論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	藤野 大輔	教員区分	一般教員

教科書	「新板 東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編(南江堂) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」矢野忠 編集主幹(文光堂)
成績評価	定期試験
留意事項	基本となる解剖(筋・支配神経)、生理学・経絡経穴学の復習、教科書を主体として授業を構成します。授業の初めに授業の復習として不定期で小テストを実施。授業の進行状況により授業内容を変更する。欠席等により不足となった資料は授業前に貰受けること。

科目の目標	症状から疾患を鑑別し治療に結びつける能力を養い、特に注意を要する疾患に対しリスク管理をできるようになり、適応症と鑑別が行えることを目標とする。さらに各疾患について治療計画を実施でき、臨床の幅を広げることが目標とする。
授業概要	症状・疾患ごとに重要なところを解説し、国家試験・臨床で実践できるように講義する。

日程

回 数	授業内容
1	臨床論ガイダンス、第2章 治療各論 19. 肩こり
2	第2章 治療各論 20. 頸肩腕痛
3	第2章 治療各論 21. 肩関節痛
4	第2章 治療各論 22. 上肢痛
5	第2章 治療各論 23. 腰下肢痛
6	第2章 治療各論 24. 膝痛
7	第2章 治療各論 スポーツ医学、外傷・障害
8	第2章 治療各論 25. 運動麻痺
9	第2章 治療各論 1. 頭痛
10	第2章 治療各論 2. 顔面痛、4. 歯痛
11	第2章 治療各論 3. 顔面麻痺
12	第2章 治療各論 8. めまい
13	第2章 治療各論 9. 耳鳴りと難聴
14	第2章 治療各論 5. 眼精疲労
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床評価実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	原 島 基	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「リハビリテーション医学 第4版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「診断と手技がみえる①」 (メディックメディア) 「病気がみえるシリーズ」 (メディックメディア)
成績評価	実技試験、出席点 (1回欠席－6点・1回遅刻・早退－2点)、授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回－4点)、授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験が60点未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	授業に関連する項目の予習・復習 (解剖学・生理学・臨床医学総論・リハビリテーション医学) に努めること。授業進行次第では内容が変化することがある。 シラバス・資料を参照し、授業がスムーズに行える服装で臨むこと。

科目の目標	鍼灸臨床の場で用いる事が出来る所見や評価項目を習得する。 所見や評価項目を用い、患者の病態や経過を推察する能力を身につける。
授業概要	所見や評価項目の意義や方法を資料や教員のデモンストレーションにて理解し、学生同士で練習を行う。 各所見や評価項目毎に知識を整理する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、徒手筋力検査①
2	徒手筋力検査②
3	徒手筋力検査③
4	徒手筋力検査④
5	反射検査①
6	反射検査②
7	感覚検査①
8	感覚検査②
9	脳神経の検査①
10	脳神経の検査②
11	脳神経の検査③

1 2	総復習
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	実技試験フィードバックと評価
1 6	検査と評価のまとめ

科 目	臨床経穴実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	内藤 玄吾・割田 萌	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院) 「カラー版 経穴マップ 第2版」王 曉明(医歯薬出版株式会社)
成績評価	実技試験7割、小テスト3割、出席点(1回欠席-6点・遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 実技試験もしくは総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	経絡経穴概論の教科書を必ず持参すること。 必ず経穴名と部位の予習をして授業に臨み、復習をすること。 シラバスを参照し、取穴しやすい服装で臨むこと。 小テストが規定の点数に満たない者は随時再テストを実施する。

科目の目標	経絡の流注を理解し、経穴の取穴法を習得する。 経穴の部位と局所解剖についても学習し習得する。
授業概要	四肢の経穴を中心とした取穴を行う。 小テストによる知識の確認、担当教員による局所解剖と取穴の説明・デモンストレーション、各自での触擦・取穴を行う。

日程

回 数	授業内容
1	足の少陽胆経①
2	足の少陽胆経②、足の厥陰肝経
3	要穴1
4	要穴2
5	要穴3
6	要穴4
7	要穴5
8	要穴6
9	要穴7
10	要穴8

1 1	要穴 9
1 2	要穴 1 0
1 3	実技試験①
1 4	実技試験②
1 5	実技試験フィードバック
1 6	総復習

科 目	触診触擦実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」 (公社)東洋療法学校協会編 (南江堂)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系」 (医学書院)
成績評価	実技試験、出席点 (1回欠席－6点・1回遅刻・早退－2点)、授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回－4点)、授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者、あるいは総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	・体調管理 (睡眠、食事など) に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも触察できるようにすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・触察部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・触察部位の構造 (骨、筋、靱帯、神経、血管) を必ず復習しておくこと。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織 (筋・神経・関節など) を中心に触察および患者を想定した、触診 (触り方) を習得する。さらに、体格 (男女や筋の発達度合い、脂肪の量など) による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の触察・触診見本を提示し、感触を経験した後に、各ペアで触察・触診をおこなう。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な触診方法
2	通電機器説明および物理療法の禁忌・適応について・前脛骨筋触擦
3	肩こりの診察および触擦：僧帽筋(上部線維)、肩甲挙筋
4	頸肩腕痛の診察および触擦①：頸椎棘突起および椎間関節
5	頸肩腕痛の診察および触擦②：頸椎横突起、前・中斜角筋、小胸筋、鎖骨下筋
6	肩関節痛の診察および触擦：肩甲骨、三角筋、棘上筋、棘下筋、大・小円筋、広背筋
7	肘痛の診察および触擦：上腕骨外側上顆、R-H ギャップ、総指伸筋、腕橈骨筋
8	腰部痛の診察および触擦：腸骨稜、腰椎棘突起、多裂筋、腸腰筋、(腰方形筋)
9	下肢痛の診察および触擦：上後腸骨棘、大腿骨大転子、梨状筋、大腿二頭筋長頭、半腱様筋、下肢動脈触診
10	膝痛の診察および触擦： 大腿骨および脛骨内側・外側上顆、大腿四頭筋、大・長内転筋、膝窩筋
11	下腿痛の診察および触擦： 前・後距腓靱帯、踵腓靱帯、長・短腓骨筋、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋
12	頭痛の触診および触擦：浅側頭動脈、大耳介神経溝、上頭斜筋、大・小後頭直筋
13	定期試験
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	鍼灸応用実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 東洋医学臨床論 くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (南江堂)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系」 (医学書院)
成績評価	実技試験、出席点 (1回欠席－6点・1回遅刻・早退－2点)、授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回－4点)、授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者、あるいは総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	・ 体調管理 (睡眠、食事など) に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・ 1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・ <u>授業中に</u>できるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも刺鍼できるようにすること。 ・ 臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・ 刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・ 刺鍼部位の構造 (骨、筋、靱帯、神経、血管) を必ず<u>復習</u>しておくこと。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織 (筋・神経・関節など) を中心に刺鍼方法を習得する。 さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の刺鍼見本を提示し、鍼尖の感触を経験した後に、各ペアで刺鍼練習をおこなう。

実務経験	鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な刺鍼方法：大腿四頭筋、顔面部刺鍼
2	鍼通電療法(EAT)の実際、前脛骨筋
3	肩こりの刺鍼：僧帽筋(上部線維)、肩甲挙筋
4	頸椎症の刺鍼：頸部椎間関節
5	胸郭出口症候群の刺鍼：前・中斜角筋、小胸筋、鎖骨下筋
6	肩痛の刺鍼：三角筋、棘上筋、棘下筋、大・小円筋
7	肘痛の刺鍼：総指伸筋（4指線維）、腕橈骨筋
8	腰部痛の刺鍼：腸腰筋、多裂筋、
9	坐骨神経痛の刺鍼：梨状筋、坐骨神経
10	膝痛の刺鍼：大腿四頭筋、大・長内転筋、膝窩筋
11	下腿痛の刺鍼：長・短腓骨筋、腓腹筋(外側頭・内側頭)、ヒラメ筋
12	頭痛の刺鍼：浅側頭動脈、頭板状筋、頭棘筋、大・小後頭神経、大耳介神経
13	定期試験
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	2年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	内藤 玄吾 他	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者応対ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ

日程【前期】

回 数	授業内容
1	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い ・接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 ・鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 ・抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科 目	解剖学Ⅶ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	山口 智也	教員区分	一般教員

教 科 書	配布プリント
参 考 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	総合的におこない基礎力と応用力を固め、考える力を養う。
授業概要	解剖学を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	解剖学総復習 1
2	解剖学総復習 2
3	解剖学総復習 3
4	解剖学総復習 4
5	解剖学総復習 5
6	解剖学総復習 6
7	解剖学総復習 7
8	解剖学総復習 8
9	解剖学総復習 9
1 0	解剖学総復習 1 0
1 1	解剖学総復習 1 1
1 2	解剖学総復習 1 2
1 3	解剖学総復習 1 3
1 4	解剖学総復習 1 4
1 5	定期試験
1 6	解答と解説、授業総括

科 目	生理学Ⅴ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	適宜紹介する
成績評価	定期試験にて評価する
留意事項	生理学の基礎知識の確認と苦手なポイントを再確認する

科目の目標	生理学やその他の科目もリンクして学習を効率良く行う
授業概要	生理学Ⅰ～Ⅳの内容を総復習する

日程

回 数	授業内容
1	生理学の基礎の復習
2	血液循環の復習①
3	血液循環の復習②
4	血液循環の復習③
5	生体防御機構の復習
6	呼吸の復習
7	消化と吸収の復習
8	代謝の復習
9	体温の復習
10	排泄の復習①
11	排泄の復習②
12	内分泌の復習①
13	内分泌の復習②
14	生殖と成長の復習
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	衛生学・公衆衛生学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	「衛生学・公衆衛生学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「公衆衛生がみえる 2022-2023」安藤 雄一 ら監修(メディックメディア)
成績評価	定期試験
留意事項	暗記する項目や他の科目との関連も多いので、復習を必ず行うこと。

科目の目標	衛生学・公衆衛生学の必要性を理解し、社会で問題となっている事柄について考える。
授業概要	授業はパワーポイントと資料を用いて行い、資料を配布する

日程

回 数	授業内容
1	衛生学・公衆衛生学の意義
2	健康
3	ライフスタイルと健康
4	環境と健康 1
5	環境と健康 2
6	産業保健
7	精神保健
8	母子保健
9	成人・高齢者保健
10	学校保健
11	感染症
12	消毒法
13	保健統計
14	疫学
15	定期試験
16	解説

科 目	臨床医学各論 V	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	山 田 智	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「なるほどなっとく内科学」 浅野嘉延 編集 (南山堂) 「病気が見える シリーズ」 (メディックメディア) 「新版東洋医学臨床論はりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編 (南山堂) 「標準生理学 第8版」 小澤濤司・福田康一郎 監修 (医学書院) 「解剖学講義 第3版」 伊藤隆 原著 (南山堂)
成績評価	定期試験により評価します。
留意事項	解剖学、生理学、病理学、臨床医学総論を復習してください。

科目の目標	解剖・生理を踏まえながら、代表的な疾患の病態生理の理解と把握、検査方法を学ぶ。
授業概要	配布資料と口述、画像や模式図などを用いて解説していきます。成績に反映しない小テストを各回実施して理解の進捗度を確認します。

日程

回 数	授業内容
1	腎・泌尿器疾患① 原発性糸球体腎炎、小テスト配布
2	腎・泌尿器疾患② 腎不全、感染症、小テスト配布と前回小テスト解説
3	腎・泌尿器疾患③ 腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患、小テスト配布と前回小テスト解説
4	リウマチ性疾患・膠原病疾患①リウマチ性疾患、膠原病、小テスト配布と前回小テスト解説
5	リウマチ性疾患・膠原病疾患② 膠原病、小テスト配布と前回小テスト解説
6	リウマチ性疾患・膠原病疾患②続き その他領域① 小児疾患、小テスト配布と前回小テスト解説
7	その他領域② 一般外科、麻酔科、小テスト配布と前回小テスト解説
8	その他領域③ 婦人科疾患、小テスト配布と前回小テスト解説
9	その他領域④ 皮膚科疾患、小テスト配布と前回小テスト解説
10	その他領域⑤ 眼科疾患、小テスト配布と前回小テスト解説
11	その他領域⑥ 耳鼻科疾患、小テスト配布と前回小テスト解説
12	その他領域⑦ 精神科疾患、小テスト配布と前回小テスト解説
13	その他領域⑧ 心療内科、小テスト配布と前回小テスト解説
14	総まとめ、小前回小テスト解説
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	臨床医学総合論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 配布プリント
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	総合的に考える力を養い、応用力をつける。
授業概要	臨床医学総論を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、臨床医学総合論①
2	臨床医学総合論②
3	臨床医学総合論③
4	臨床医学総合論④
5	臨床医学総合論⑤
6	臨床医学総合論⑥
7	臨床医学総合論⑦
8	臨床医学総合論⑧
9	臨床医学総合論⑨
10	臨床医学総合論⑩
11	臨床医学総合論⑪
12	臨床医学総合論⑫
13	臨床医学総合論⑬
14	臨床医学総合論⑭
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	経絡経穴概論Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 適宜プリントを配布
参 考 書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験8割、暗唱2割(指定された期日までに行うこと)による総合評価 定期試験もしくは総合評価が6割未満の者は再試験とする。
留意事項	十四経について所属する経穴名が暗唱できること。 欠席をしないこと。 予習・復習を必ず行い、記憶すること。 鍼灸師として必要な経穴の知識を確認しておくこと。

科目の目標	経絡経穴概論の基礎力を固め、考える力を養う。
授業概要	経絡経穴概論の内容を総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	十四経書き取り①
2	十四経書き取り②
3	流注・骨度法
4	取穴部位・要穴①
5	取穴部位・要穴②
6	取穴部位・要穴③
7	取穴部位・要穴④
8	取穴部位・要穴⑤
9	取穴部位・要穴⑥
10	取穴部位・要穴⑦
11	取穴部位・要穴⑧
12	奇経・奇穴など
13	頸部・顔面・頭部：取穴部位
14	取穴部位のまとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	東洋医学概論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	黒岩 太	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験
留意事項	配布する資料を必ず持参すること。必ず復習を行うこと。

科目の目標	東洋医学概の知識と応用力の習得を目標とする。
授業概要	東洋医学概論Ⅰ、Ⅱの復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス 陰陽・五行論
2	精・気・血・津液と神の生理・病理
3	八綱弁証
4	肝・胆の生理・病理
5	心・小腸の生理・病理
6	脾・胃の生理・病理
7	肺・大腸の生理・病理
8	腎・膀胱の生理・病理
9	経脈病証
10	東洋医学的診察法と証の立て方 (難経六十九難等)
11	東洋医学的診察法と証の立て方 (鍼灸の補瀉・古代刺法等)
12	東洋医学的診察法と証の立て方 (その他)
13	総復習①
14	総復習②
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床鍼灸学Ⅲ（Aクラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	割田 萌 他	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	各授業内で適宜紹介する。
成績評価	出席点と実技態度による総合評価。
留意事項	1テーマごとに連続性をもって講義を行うので、欠席をしないようにすること。

科目の目標	様々な鍼灸治療の方法に触れ、鍼灸師としての知見、技術を深める。
授業概要	それぞれの業界で活躍する先生方をゲストにお呼びし、授業を行う。

日程

回 数	授業内容
1	経絡リンパ治療①
2	経絡リンパ治療②
3	経絡リンパ治療③
4	経絡リンパ治療④
5	積聚治療①
6	積聚治療②
7	積聚治療③
8	積聚治療④
9	中医学治療①
10	中医学治療②
11	中医学治療③
12	中医学治療④
13	現代医学治療①
14	現代医学治療②
15	現代医学治療③
16	現代医学治療④

科 目	臨床鍼灸学Ⅲ (B クラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	小笠原 京哉 他	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	各授業内で適宜紹介する
成績評価	出席点と実技態度による総合評価。
留意事項	1 テーマごとに連続性をもって講義を行うので、欠席をしないようにすること。

科目の目標	様々な鍼灸治療の方法に触れ、鍼灸師としての知見、技術を深める。
授業概要	それぞれの業界で活躍する先生方をゲストにお呼びし、授業を行う。

日程

回 数	授業内容
1	積聚治療①
2	積聚治療②
3	積聚治療③
4	積聚治療④
5	経絡リンパ治療①
6	経絡リンパ治療②
7	経絡リンパ治療③
8	経絡リンパ治療④
9	現代医学治療①
1 0	現代医学治療②
1 1	現代医学治療③
1 2	現代医学治療④
1 3	中医学治療①
1 4	中医学治療②
1 5	中医学治療③
1 6	中医学治療④

科 目	薬学概論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	根本 香代・陶 惠寧 他	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	「女性診療で使えるヌーベル漢方処方ノート」武田卓 著（メディカ出版）
成績評価	確認試験を5割、定期試験を5割として総合評価する。 それぞれの試験が6割に満たない場合は再試験の対象とする。
留意事項	基礎となる生理学や東洋医学を復習しておくこと。

科目の目標	生理学・東洋医学臨床論等の知識を活かし、鎮痛薬など一般的に服用されている薬を中心とした薬理や漢方薬の基礎を理解して、患者とのコミュニケーションの幅を広げることを目的とする。患者が処方されている薬の概要を把握し、その効果をより高める治療ができる臨床家を育成する。
授業概要	現代的な薬学では症状別に、漢薬では証や生薬別に知識を深めていく。

日程

回 数	授業内容
1	薬理学の基礎知識
2	解熱・鎮痛・抗炎症薬
3	風邪薬
4	抗アレルギー薬
5	循環器系に作用する薬物
6	消化器系に作用する薬物
7	神経系に作用する薬物
8	確認試験
9	漢方薬総論
1 0	風邪・インフルエンザに対する漢方薬
1 1	肩こり・首こり・腰痛に対する漢方薬
1 2	冷えに対する漢方薬
1 3	不眠・不安・リラックスに対する漢方薬
1 4	疲労・体力低下に対する漢方薬
1 5	定期試験
1 6	フィードバック，加齢による不調・更年期・妊活に対する漢方薬

科 目	治効理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「はりきゅう理論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「はりきゅう理論 3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「リハビリテーション医学 第4版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「はり師、きゅう師、あんま・指圧・マッサージ師のための痛み学習テキスト」 (公社)東洋療法研修試験財団 ※ 他、適宜学術論文を参照
参 考 書	「はりきゅう実技＜基礎編＞」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「病理学概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験および小テストで合算評価する。小テストは授業時間内で適宜実施する。 評価方法) 小テストは13回実施予定で総合評価の13%の配点(及第点に達したものを1%)とする。 期末試験は100点満点で実施し、87%の配点とする。 評価基準) 期末試験のみで60点未満、小テストとの合算評価で60%未満の場合、再試験対象とする。
留意事項	鍼灸領域の学術論文を基とした学習範囲なので、基礎医学(生理学領域のうち、とくに神経系)の再確認を常に繰り返しておく事。

科目の目標	鍼灸は科学的根拠に乏しい治療と考える旧来の医学知識は近年刷新され、科学的視点による実験から得られた知見による、治効理論が構築されている。ごく近年では、体内での情報伝達や化学反応が技術的に可視化された事により、鍼灸領域においても新たな観点が加わりつつある。 本科目は、鍼灸治療に関わる基礎知識・作用機序を学習し、臨床において根拠ある施術ができるようになることを目標とする。
授業概要	鍼灸が物理的に影響を及ぼす皮膚組織・筋組織・結合組織の現代医学的な理解を進める。 組織損傷時にみられる変化を学習し、鍼灸施術で生じる組織変化への理解を進める。 鍼灸刺激によって生じる神経系・内分泌系・免疫系の反応を学習する。 基本となる教科書範囲は、主に「はりきゅう理論2版」第9～11章ですが、「はりきゅう理論3版」第8～10章の内容も配布テキストで対応していきます。

日程

回 数	授業内容
1	神経系の生理解剖1
2	神経系の生理解剖2、内分泌系の生理解剖1
3	内分泌系の生理解剖2、免疫系の生理解剖
4	第9章：鍼灸治効の基礎1…痛みの定義と分類、温度覚の性質と鍼灸との関連
5	第9章：鍼灸治効の基礎2…触圧覚の性質と鍼灸との関連
6	第9章：鍼灸治効の基礎3…運動器の性質と鍼灸との関連

7	第9章：鍼灸治効の基礎4…鍼鎮痛1
8	第9章：鍼灸治効の基礎5…鍼鎮痛2
9	第9章：鍼灸治効の基礎6…鍼灸施術の刺激と反応
10	第10章：鍼灸療法の一般治効理論1…鍼灸施術による自律神経反応
11	第10章：鍼灸療法の一般治効理論2…鍼灸施術による生体防御機構の反応
12	第10章：鍼灸療法の一般治効理論3…鍼灸施術と神経・内分泌・免疫系の相互作用
13	第10章：鍼灸療法の一般治効理論4…鍼灸治効機序に関与する分子生理学、薬理学総括
14	第11章：関連学説
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	臨床応用実習Ⅰ (前期 Bクラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし。テーマに沿ったテキストにて配布。
参 考 書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「ネッター 解剖学アトラス」 F.H.Netter 著 (南江堂) 「クリニカルマッサージ」 James H. Clay 著 (医道の日本社) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」 坂井建雄 監訳 (医学書院)
成績評価	出席 (1回欠席－6点・1回遅刻－2点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理 (睡眠、食事など) に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺激は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺激部位の構造 (骨、筋、靱帯、神経、血管) を必ず予習しておくこと。

科目の目標	触診、刺激技術の更なる向上と、様々な疾患に対して鍼灸治療を行うための、基本的な刺激技術や鍼通電技術を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学 (解剖学、生理学) と実技実習 (鍼基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床評価実習Ⅰ・Ⅱ、鍼灸応用実習Ⅰ・Ⅱ) の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の、基礎となるパルス治療、特に筋パルスの技術を獲得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション (鍼について、灸について)、刺激 (基礎)、リスクマネジメント…安全に刺激するには
2	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺激法①肩甲骨周囲
3	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺激法②前胸部、上肢
4	背部筋を使って反応部位の探し方と刺激量の調節の仕方
5	身体バランスの見方、体幹部 (背部) 刺激法①
6	身体バランスの見方、体幹部②腹部 兪募配穴との組み合わせ

7	下肢帯①(骨盤, 股関節)刺鍼法
8	下肢帯②(骨盤, 股関節, 下腿)刺鍼法
9	局所治療①頸部(斜角筋)～肩関節刺鍼法
1 0	局所治療②膝刺鍼法
1 1	全身調整～後療法①
1 2	全身調整～後療法②
1 3	症状に応じた施術, 組み立て
1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	総復習

科 目	臨床応用実習Ⅱ (前期 Aクラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	橋本 巖	教員区分	一般教員

教科書	資料を配布する。
参考書	「日本鍼灸医学 経絡治療・基礎編」 経絡治療学会 「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	出席(1回欠席－6点・1回遅刻－2点)、相応しくない身だしなみ(－4点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺激は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺激部位の構造(骨、筋、靱帯、神経、血管)を必ず予習しておくこと。

科目の目標	触診、刺激技術の更なる向上をはかる。特に、経絡病証を考慮した治療を行うために必須な経絡流注の把握や基本的な切診技術、要穴の取穴と適切な刺激法を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学(解剖学、生理学)と実技実習(鍼基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床評価実習Ⅰ・Ⅱ、鍼応用実習Ⅰ・Ⅱ)の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の経絡治療を修得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 経絡治療について、診察法概論(切診)、刺激の基礎(姿勢)
2	「肺経」流注と経絡病証・脈診(右寸口)と切経・要穴と背部俞穴刺激、刺激の基礎(押手)
3	「肝虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
4	「腎虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
5	「脾虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
6	「肺虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
7	「脾経」流注と経絡病証・脈診(右関上)と切経・要穴と背部俞穴刺激、刺激の基礎(刺手)
8	「心経」流注と経絡病証・脈診(左寸口)と切経・要穴と背部俞穴刺激、刺激の基礎(弾入)
9	「腎経」流注と経絡病証・脈診(左尺中)と切経・要穴と背部俞穴刺激、刺激の応用(旋撚)
10	「心包経」流注と経絡病証・脈診(右尺中)と切経・要穴と背部俞穴刺激、刺激の応用(雀啄)
11	「肝経」流注と経絡病証・脈診(左関上)と切経・要穴と背部俞穴刺激、刺激の応用(催気)
12	体質別治療
13	体質別治療

1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	総復習

科 目	臨床実習（Aクラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	
		履修区分	
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	3年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	浅野 貴之 他	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	評価表に基づく。1～37回目までを前期、38～48回目を後期の評価対象とする。
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者応対ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 外部の病院や鍼灸院で実習を行い、知見を深める

実務経験	新宿医療専門学校附属左門町鍼灸院にて勤務
実務経験と 授業の関連	臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる

日程【前期】

回 数	授業内容
1・2	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い ・接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 ・鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 ・抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11	
12・13	
14・15	
16・17	
18・19	
20・21	

22・23	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い 接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
24・25	
26・27	
28・29	
30・31	
32・33	
34・35	
36・37	

科 目	臨床実習 (B クラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	
		履修区分	
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	3 年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	内藤 玄吾 他	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	評価表に基づく。1～37回目までを前期、38～48回目を後期の評価対象とする。
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者応対ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 外部の病院や鍼灸院で実習を行い、知見を深める

実務経験	新宿医療専門学校附属左門町鍼灸院にて勤務
実務経験と 授業の関連	臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる

日程【前期】

回 数	授業内容
1・2	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い 接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11	
12・13	
14・15	
16・17	
18・19	
20・21	

22・23	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い 接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
24・25	
26・27	
28・29	
30・31	
32・33	
34・35	
36・37	

科 目	総合鍼灸実習（Aクラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	（美 容 鍼）北園 実鈴，[岡本 真理] （スポーツ鍼）島田 正寿	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	適宜授業内で紹介する。
成績評価	美容鍼の評価、スポーツ鍼の評価をそれぞれ50点満点としてその合算（100点満点）を総合評価点とする。
留意事項	応用実技なので、基礎鍼灸技術を反復練習し授業に臨むこと。

科目の目標	疾患の治療だけでなく、様々なニーズに対応する鍼灸施術の習得を目的とする。美容鍼やスポーツ外傷の予防・ケアなど、時代背景に見合った幅広い臨床家を育成する。
授業概要	美容を目的としたフェイスクアや、各競技で障害を起こしやすい部位や、臨床で求められる技術を練習しながら理論とともに取得する。

日程

回 数	授業内容
1	美容鍼のガイダンス 皮膚の構造（北園）
2	表情筋ならびに咀嚼筋の刺鍼（北園）
3	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅰ（北園）
4	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅱ（北園）
5	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅲ（北園）
6	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅳ（北園）
7	立体造顔美容に基づいた実技試験（北園）
8	総括と総評 上級のデモンストレーション（北園）

9	スポーツにおける上半身の障害と治療1（島田）
10	スポーツにおける上半身の障害と治療2（島田）
11	スポーツにおける上半身の障害と治療3（島田）
12	スポーツにおける下半身の障害と治療1（島田）
13	スポーツにおける下半身の障害と治療2（島田）
14	スポーツにおける下半身の障害と治療3（島田）
15	実技試験（島田）
16	成績評価、フィードバック（島田）

科 目	総合鍼灸実習（Bクラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	（スポーツ鍼）島田 正寿 （美 容 鍼）北園 実鈴, [岡本 真理]	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	適宜授業内で紹介する。
成績評価	美容鍼の評価、スポーツ鍼の評価をそれぞれ50点満点としてその合算（100点満点）を総合評価点とする。
留意事項	応用実技なので、基礎鍼灸技術を反復練習し授業に臨むこと。

科目の目標	疾患の治療だけでなく、様々なニーズに対応する鍼灸施術の習得を目的とする。美容鍼やスポーツ外傷の予防・ケアなど、時代背景に見合った幅広い臨床家を育成する。
授業概要	美容を目的としたフェイスクアや、各競技で障害を起こしやすい部位や、臨床で求められる技術を練習しながら理論とともに取得する。

日程

回 数	授業内容
1	スポーツにおける上半身の障害と治療1（島田）
2	スポーツにおける上半身の障害と治療2（島田）
3	スポーツにおける上半身の障害と治療3（島田）
4	スポーツにおける下半身の障害と治療1（島田）
5	スポーツにおける下半身の障害と治療2（島田）
6	スポーツにおける下半身の障害と治療3（島田）
7	実技試験（島田）
8	成績評価、フィードバック（島田）

9	美容鍼のガイダンス 皮膚の構造（北園）
10	表情筋ならびに咀嚼筋の刺激（北園）
11	肩背部のケアと顔面部への症状別刺激Ⅰ（北園）
12	肩背部のケアと顔面部への症状別刺激Ⅱ（北園）
13	肩背部のケアと顔面部への症状別刺激Ⅲ（北園）
14	肩背部のケアと顔面部への症状別刺激Ⅳ（北園）
15	立体造顔美容に基づいた実技試験（北園）
16	総括と総評 上級のデモンストレーション（北園）